

令和4年度 小平市立小平第十四学校 学校評価報告書

学校教育目標 人権尊重の精神を基調に、心身共に健康で、知性と感性に富み、生涯学び続けようとする国際性豊かな日本人の育成を目指して、次の目標を掲げる。
 ◎たくましい子 ○やさしい子 ○考える子 ○おこなう子

目指す学校像(ビジョン)
【目指す学校像】 (1)児童にとって学びがいがある学校 (2)教職員にとって働きがいがある学校 (3)保護者にとって託しがいがある学校 (4)地域にとって支えがいがある学校
【目指す児童・生徒像】 「たくましい子」(1)自分で考え判断し、粘り強く取り組む子 (2)自らを律しつつ、協働できる子 (3)明るく健康で、すすんで運動に親しむ子
【目指す教員像】 (1)児童に学ぶ楽しさや分かる喜びを味わわせ、児童のよさや個性を伸ばす教員 (2)切磋琢磨して授業力を高め結果を出すことで充実感をもてる教員 (3)保護者・地域から信頼される教員

前年度までの学校経営上の成果と課題
【成果】 学校経営協議会、学童農園の活用、学校支援ボランティア事業など、保護者や地域との連携の充実。コロナ禍における教育活動の工夫と実践。教職員の心身の健康と働き方改革の浸透。
【課題】 児童・教職員の生命・健康の保持のための取組の継続。学習者用端末の活用を含めたコロナ禍における教育活動の見直しや工夫・実践。学校の教育活動の保護者・地域に向けた広報活動の充実。

	具体的方策	第1回評価		成果・課題・対策	第2回評価		学校関係者評価	成果・課題・次年度以降の対策
		取組指標	成果指標		取組指標	成果指標		
確かな学力の定着	①返事・挨拶、聞き方と話し方、用具の準備の徹底 ②授業の開始時刻、終了時刻の厳守 ③明確なめあてと振り返りのある授業、家庭学習による定着	3.0	3.5	・「はい、立つ、です」の授業規律は定着が見られた。 ・姿勢、音0での話の聞き方、忘れ物0については更に定着を図る。 ・特に、1, 3, 5校時の授業開始時刻を厳守し、学習に向かう姿勢へ切り替える意識をもたせる。 ・めあてを明確に捉えさせ、まとめとの整合性を図る。めあての達成を振り返り、学習内容の理解を確かめたり、家庭学習で補充する内容を確認したりする。	3.1	3.5	・授業規律は形から入ることで定着へつながったと思う。さらなる継続が必要である。 ・どの授業もめあて「ままとめ」振り返りが用いられ、定着していることが素晴らしい。 ・話し手である人の目を見て主体的に「聞く」という姿勢は地域も粘り強く指導していきたい。 ・「宿題は必ずやるものだ」という認識が児童にしっかりと定着しているように感じる。	・授業規律については一定の定着が見られたが、特に「聞く」ことに課題があると考える。形だけでなく主体的に話を聞くよう全学級で共通して指導していく。 ・児童の基礎学力定着の個人差については、個別対応を丁寧に行っていくことが課題である。家庭学習においては、学校全体の取り組み及び学年に応じた取り組み方を示し、継続できるようにする。
	①全学級による授業研究の実施 ②学習者用端末の活用等による、児童の主体性を重視した授業の実施と教材の工夫 ③対話的な学習活動を重視した単元全体を見通した授業の実施 ④②③が深い学びにつながる授業の実施	3.2	3.1	・学期ごとの授業公開期間では、教員が互いに授業を開く風土を醸成する。 ・校内研究においては、学習者用端末の活用と教師の価値付けを手だてとした授業実践に全学級が取り組む。 ・児童の主体性を引き出すために、授業導入で課題との合わせ方に工夫し、各教科等の特質に応じた見方・考え方によって、子ども自身で知識・技能等を洗練させたり、統合させたりするような授業を展開する。	3.1	3.3	・授業を公開し合うことが指導力向上につながるため、今後も積極的に取り組む必要がある。 ・学力の個人差が大きくなってきているように感じる。学校の対応を知りたい。	・授業観察に合わせた学期ごとの授業公開期間では、教員が互いに授業を見合う意識をもっと高める必要がある。授業観察時期や時間は、その周知についても工夫する。 ・校内研究で研修した学習者用端末の効果的な活用は、引き続き、教員が互いに授業を開く風土を醸成しながら実践を積み重ねる。
	①こまめな実態把握、相談・連絡・報告・記録 ②校内組織の活用と連携による迅速な対応	3.6	2.9	・生活指導実態調査等による実態把握、相談・連絡・報告・記録と全職員が徹底している。今後も案件に迅速に対応できる体制づくりに努める。ただ、保護者には見えずらくアンケートでは「わからない」という評価が多かった。 ・校内委員会等で特別支援教育コーディネーターや特別支援教育専門員を要にして推進する。	3.5	2.9	いじめや不登校等の案件については、学校として丁寧に細やかに取り組んでいると感じる。教職員全体での共通認識が重要であると考ええる。 いじめの取組について保護者会で発信する機会を設けているとのことだったので、今後も継続させる。また保護者に発信する手段として、CSだよりを活用する余地があるのではないか。 ・先生が「あいさつしよう!」と率先して声をかけることが多く、児童も自然に挨拶ができていくと感じる。 ・児童に誰、という顔をされるのは悲しかった。 ・地域一丸となって挨拶のある街づくりを目指す必要がある。日々の見守り等、強化しようと思った。 ・児童の心をはさぶる道徳教材を見つけてほしい。	・生活指導実態調査等による実態把握、相談・連絡・報告・記録と全職員が徹底できた。教職員で共通理解し、組織的な対応ができていく。次年度も引き続き徹底する。 いじめ防止基本方針、いじめ対策委員会の開催、年3回のアンケート実施などを、適宜、保護者に周知し、啓発を図る。
豊かな人間性の育成	①挨拶・返事、靴箱の整理、身の回りの整理整頓、安全で清潔な行動様式を確立させる。 ②全教職員による情報の共有、統一した指導 ③ねらいを明確にした週1時間の道徳授業の充実	3.2	3.1	・挨拶については、アンケートから児童はできていると思っているが、教員、保護者は十分でないと感じていることが分かった。安全指導のための教材や、指導時間を統一することでより徹底する。 ・毎週1回、全教員で各クラスの児童の様子を共有し、見守り体制を築く。 ・児童一人一人が深く考え、道徳ノート等に考えを書く時間を確保し、より個人の見取りを丁寧に実施して、3学期に評価を行う。	3.3	3.2	・今年度挨拶運動を兄弟学年ごとに取り組み、成果を上げたと感じる。引き続き挨拶を重点として、低・中・高学年に合わせた目標を設定して取り組む。 ・道徳科においては、全児童が道徳ノートを使用し、教員がより丁寧な見取りを行い、評価に反映できるようにする。	
	健康でたくましい心身の育成	①主体的な運動への動機付けになる体育授業の実施 ②体育的活動の意図的・計画的な実施 ③養護教諭による健康に関する授業の実施	3.0	3.3	・家庭や体育館においても、授業1単位時間の流れをホワイトボードで提示し、掲示物等により運動のめあてを確認する。ICTを利用して自分の動きを知り主体的な運動へつなげる。 ・体育委員を中心に様々な運動スペースを中休みに定期的に設け、年間を通じて体力向上の意識をもたせる。	3.2	3.3	・日常的に体育的活動に親しむ「十四小トライアル」は、学校全体で取り組むことができた。授業の帯時間でも活動を継続し、本校の重点とする体力の向上に努める。 ・体育館では大型モニターを設置し、必要に応じて動きを動画等で示しながら学習を進めた。今後もICTを活用しながら主体的な運動へつなげる。
保護者と連携	①栄養士の専門性を生かした食育授業の実施 ②学童農園での体験活動の充実	2.9	3.4	・養護教諭・栄養士と共に食育の授業、学童農園での体験学習を充実させる。 ・ホームページや学級だよりで給食や学童農園の体験についてこまめにお知らせしていたこともあり、成果指標が高く出た。	2.8	3.5	・健康や食育の授業、学童農園での体験学習を引き続き充実させる。 ・給食や学童農園の体験については今後も即日アップに努めていく。	
	①小・中連携共通「こだいらこれだけは」のユニバーサルデザインの充実 ②一中校区「推薦図書60冊」の活用	3.0	3.1	・学習目標を達成するために図書や資料をそろえるようにする。 ・6年生でコミュニケーション授業を実施し、事前事後のアンケートを実施し、成果と課題を把握する。	2.7	3.2	・本の貸し出しや、学級文庫を充実させることで読書の取組が保護者に伝わったのであれば、うれしい。 ・読書習慣には個人差が大きい。読書活動の充実をさらに進めてほしい。 ・学校HPが見やすく探しやすい、保護者の閲覧数が上がったと思う。また出来事の日日アップなど各学年充実している。	・小・中連携の授業は、感染防止を意識しながら工夫して行うことができた。 ・図書は、一中校区推薦図書の他にも、幅広い図書にも触れる読書を推奨していく。また、次年度は図書館司書を中心に読書活動の充実につながる取り組みを実施する。
働き方改善	①週5回以上の学校HP更新や学級通信等の広報活動の充実 ②地域の人材・自然・施設等を活用した授業の各学年2回の実施 ③地域に貢献する授業の各学年1回以上の実施	3.0	3.3	・ホームページは出来事の日日アップ、事前予告、学年・学級だよりの内容とリンクさせるなど、工夫して更新する。 ・各学年が、学期に1回は実施する。 ・コロナの影響もあり地域貢献型の授業は充実できていない。	3.0	3.3	・引き続き学級だより、ホームページはタイムリーに、行事等の事前予告、当日連絡等を適宜行い、保護者の教育活動への関心を高める。 ・各教科、総合的な学習の時間において、学校経営協議会の人材ネットワークを活用し、地域貢献型カリキュラムを開発するなど再編に取り組む。	
	①在勤時間1日11時間以下または週60時間以下の実施 ②校務分掌の点検とスリム化	3.0	3.2	・週の在勤時間60時間以下を目指し、日々の業務を週内で計画的に進めるために、各自が出勤時に退勤時刻を予告する。	3.2	3.5	・在勤時間1日11時間以下または週60時間以下は概ね達成できている。次年度も引き続き放課後の業務時間の確保や定時退勤チャレンジの設定をして、さらに効率よく進めていく。	
働き方改善	①月1回の「ミニ研修会」の実施 ②経営支援委員会を中心とした教職員による主体的な学校運営	3.0	2.8	・OJT研修が十分でない。研究推進委員会を中心に月1回の実施を定例化して取り組む。 ・月2回は副校長直轄の経営支援部会を開催し、主幹・主任教諭層のボトムアップによる学校経営への参画を促す。	3.0	2.9	・多忙の中ではあるが、子どもと触れ合う時間がたくさんあったらいいなと思う。 ・保護者への連絡の必要があったり、遅くなることが多くなり、大変だと思う。 ・外からは正直よく分からない。 ・CSのプロジェクト熟議で先生方と話す機会があるが、先生方の雰囲気がとても良いと感じる。 ・一回一回を貴重なものとし、取り組んでもらいたい。 ・授業の事、子どもの事、保護者の事など職員室でする会話の中に指導に関するヒントがたくさんあるのでは。	・年度後半は指導教諭の授業を参観し校内に還元できるようなOJT研修を進めた。次年度は、年度当初に研究推進委員会がOJT研修を計画し実施していく。 ・経営支援部会において、幹部教員に情報共有及び連携強化、授業改善の推進を担わせる。